

応用物理学会 薄膜・表面物理分科会

Sep. 2019 ■ No. 168

News Letter

半導体GaNの基礎と応用

— パワーデバイス開発の
ための合成・分析・構造
設計技術 —



薄膜・表面物理分科会ホームページ — <https://annex.jsap.or.jp/tfspd/>

新たな夢を追って

筑波大学数理物質系 重川秀実



これまで、凡そ、先ばかり見つめて走り続けてきましたが、この春、紫綬褒章を受章しまして、多くの人に感謝しますとともに、これまでの道のりを振り返る良い機会になりました。子供の頃は宇宙の果てが知りたくて、天文雑誌の写真を眺め、『将来の夢は天文学者』と小学校の卒業文集に書いたことが思い出されます。

中学、高校時代、生きる意味を文学に求める友人もいましたが、私にとっては、やはり宇宙の謎を追うことが、その答えを求める道と映りました。その後、大学2年の夏でしたか、3年生より専門とする学科を届けるぎりぎりまで悩んだ末、物理への期待を持ちながら理工学科と書きましたが、その選択が今日への一歩になったかも知れません。

研究面では、『固体の表面や固体表面に置かれた分子等を原子一つ一つの分解能で観察・精密に制御することができる走査トンネル顕微鏡を基盤とした新しい極限計測技術の開発。そして、その技術を駆使し、極微の世界で起こる様々な物理化学現象を明らかにすることで表面科学や分子科学分野の展開に貢献してきたこと』が受賞理由の一つかと思いますが、本分科会での活動を深く認めて頂いたことも大きな理由になったものと思います。幹事会、常任幹事会でともに努力して頂いた皆さん、分科会で活躍されている会員の皆さんには、心より感謝致します。

いろいろな機会に宇宙の話をしてみると、『大きな世界から小さな世界に飛んだんですね』とよく言われます。トンネル効果で生まれた宇宙とトンネル顕微鏡はトンネルで繋がっていて、などと笑いで答えることも多いのですが、ただ答えを知りたくて謎を追う心、もしかしたら答えにたどり着けるかも知れないという想い、が研究に取り組む力の源かも知れません。また、目標を定めたら諦めないこと、日々努力を重ねること、が、どんな世界でも事を成す為に大切な姿勢と改めて感じています。諦めた時が終わるとき、とよく言われますが、『努力をしなくなると成長しなくなる』というのは、ベル研究所への留学を勧め助けて頂いた、櫻井利夫先生が、当時、英会話について話して下さったことで、以後、全てに通じることと肝に銘じています。そして何より、『女神に愛される生き方をすること』。これは、故米長邦雄棋士が『勝つために守るべき心がけ』として何かの本に書いておられた言葉ですが、運を大切にするには、自身に対して胸を張れる生き方をしなくてはならない、といった説明があったように思います。どう生きるか、は、結局、自らに、そして、その後の道に映し出される、ということでしょうか。

これまでも触れてきたことですが、人生、一度で短く、皆が笑顔で互いを思いやれる世界が求められます。誰もが役割を担って助け合い、果たした努力がきちんと評価され報われる幸せを感じることができる社会を創ること。その為には、今、当たり前とされていることが、また、されようとしていることが本当にあるべき姿なのか、たどり着くべき先を見つめ直し道を探すことと併せ、夢を追う力を生む心のやりとりが大切と思います。

さて、今回、執筆の機会を与えて頂き、いろいろと考える時間を持ちましたが、一つの区切りというより、走りながら振り返ったというのが素直な気持ちです。まだまだ青春。次なる目標を追い、引き続き、ただし息切れをしないよう注意して、全力疾走したいと思います！